



特集

先駆者 夕子ノ 記憶。

緊急開拓事業から始まった

昭和20年の戦後開拓時代。

劣悪な立地条件の中、

寒地農業確立のために

海外からの引き揚げ者などが

入植する時代だった。

しかし、冷害などの試練の中で

離農する者たちが続出。

それでも残された者たちは

勇躍開墾のくわを入れ、

血のにじむ努力で

未来へと農を引き継いでいった。

戦後開拓から現代の農業事情について

2カ月にわたって特集します。



清水組

初期の戦後開拓を彩るものに代行開拓制度があった。これは開拓を迅速に進める一つの方法として考えられたもので、開発営団や農業会、土建会社などに原野の開墾を請け負わせ、トラクターなどを使用して効率的に進めようというものだった。雄武町では清水組が代行機関として雄武出張所を設置。幌内・音稲府・御多込薬の各地区においてトラクターを使用し機械開墾を行っていた。